



2月から3月にかけて、町内4保育園で園児の作品展が開催されました。ひがしね保育園では、ぶどう組、ばなな組、みかん組それぞれの力作を展示。4月から1年生となる年長児は、設計図を書いてオリジナルの時計を作りました。また、ひらがなの1文字を選んで作ったかるたの読み札と絵札には、子どもたちの目に映った動物や昆虫、日頃のできごとなどが描かれ、子どもたちの感性が伝わる作品展でした。

工作や図画、かるたに俳句 保育園で作品展開催



3月3日、産業センターで、九州大学准教授で農学博士の比良松道一氏を迎えての講演会が開催され、現代の学生の食の実態、家庭の食卓の実態をお話いただきました。食事を「心」で食べるようになってほしい、代々受け継いできた料理のバトンを子どもたちに渡すきっかけづくりにと、小中学校等での実施が広まる「弁当の日」の取り組みを紹介いただき、「食の大切さ」を大人もまた改めて思う講演会となりました。

ありがとう！の心を育む弁当の日 白鷹学講座「比良松道一講演会」

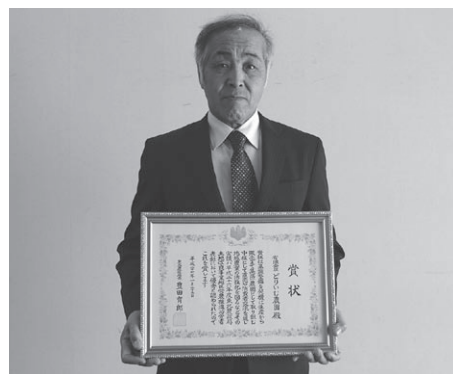
真美子さんはこれまでも作家として活動されていますが、今回の受賞作は信吾さんとの共著で応募。一般社会からは見ることのない拘留所内が主な舞台となり、拘留所の内部と物語の中心となる死刑囚をめぐる人物それぞれの心理が描かれ、最終選考で最も高い評価を受けました。受賞の報告を受けたときは、何を話したのかよく思い出せないほどの驚きと喜びだったそうです。

第6回日経小説大賞（日本経済新聞社・日本経済新聞出版社共催）に、紺野仲右エ門氏（紺野信吾さん・真美子さん夫妻：畔藤）の長編小説「女たちの審判」が選ばれました。



「女たちの審判」は2月に日本経済新聞出版社より出版されています。

第6回日経小説大賞に 紺野仲右エ門氏の「女たちの審判」



有限会社どりいむ農園（紺野伊久雄取締役社長）は、経営体育成基盤整備事業の実施を機に、生産から販売まで地元で取り組む体制を築いて担い手を中心に農業生産の効率化を図るとともに、施設野菜等の生産を拡大し、水稲と園芸作物の複合経営を確立しています。また、都市部との交流活動のほか、生産者と消費者を結ぶ取り組みを積極的に導入して地域農業の活性化に貢献していることなどが認められ、土地改良事業地区営農推進功労者としてこのたびの受賞となりました。
おめでとございます。

東北農政局長賞を受賞

有限会社どりいむ農園